

# 英米文化学会会報

第 82 号

平成 22 年 2 月 15 日



インターステイト・ハイウェイを東へ向かう。テキサスの広漠たる大地を過ぎ、アーカンソー州に入ると、緑の立ち木が現れ始める。クルーズ・コントロールを州の法定最高速度時速70マイルに固定していても、風景はゆるやかに流れていく。アメリカの広さと、そして自由を感じる瞬間。(撮影：佐野 2006年3月)

## 目次

- ◆ 例会担当より 英米文化学会第 131 回例会 (3 月開催) のお知らせ
- ◆ 例会担当より 英米文化学会第 132 回例会 (6 月開催) 発表者募集
- ◆ 大会担当より 英米文化学会第 28 回大会 (9 月開催) 発表者募集
- ◆ 分科会担当より 分科会報告
- ◆ 財務担当より 年会費納入のお願い
- ◆ 事務局より 学会暦・会員消息・訃報

## ◆英米文化学会 第 131 回例会のお知らせ

(例会担当理事：小林弘)

日時：平成 22 年 3 月 13 日(土)午後 3 時 00 分～6 時 30 分

午後 2 時 30 分受付開始

場所：日本大学歯学部 3 号館 二階 第 5・6 講堂 <地図は 4 ページに掲載>

(JR 御茶ノ水、営団千代田線新御茶ノ水、都営新宿線小川町 他 下車)

総会：日本大学歯学部 3 号館 二階 第 5 講堂 (例会に続けて総会を開催します)

時：午後 6 時 10 分～6 時 30 分

懇親会：日大歯学部 3 号館 地下ラウンジ、例会会場と同じ建物の地下です

会費：2,000 円 午後 6 時 30 分～8 時 30 分 懇親会のみ参加も歓迎いたします。

## 開会挨拶

英米文化学会会長

小野 昌 (城西大学)

(3:00—3:10)

## 研究発表

### 1. イギリス騎士道の原形としての *Beowulf* (3:10—3:50)

発表 長谷川千春(鶴見大学大学院)

司会 相良英明 (鶴見大学)

### 2. 春をもたらす母と娘 — 『冬物語』をめぐって (3:50—4:30)

発表 大久珠緒 (城西大学)

司会 中村 豪 (昭和女子大)

————— 小休止(4:30—4:40) —————

### 3. ディクテーションの訓練とその効果についての分析 (4:40—5:20)

発表 渡辺由紀子 (国際短期大学)

司会 鈴木理枝 (国際短期大学)

### 4. ICレコーダを用いたシャドーイング指導の活用事例 (5:20—6:00)

発表 中山誠一 (城西大学)

鈴木明夫 (東洋大学)

司会 石川正子 (城西大学)

## 閉会挨拶

英米文化学会理事長

石川郁二 (法政大学)

(6:00—6:10)

## 研究発表抄録

### 1. イギリス騎士道の原形としての *Beowulf*

長谷川 千春(鶴見大学大学院)

*Beowulf* は英雄でもあり、王にもなる。この二つの立場を持つことによって生ずる理想像の不一致は、しばしば議論されてきている。ここで問題となるのはその理想像の不一致にどのような精神が働いているのかという問題である。この問題は *heroism* という概念で論じられる場合が多いが、今回の発表では、*chivalry* (騎士道) に焦点を当てて論じていきたい。

騎士道的要素として必ずと言っていいほど、「武勇」が挙げられる。*Beowulf* に最も特徴的に表れる要素はこの「武勇」である。これが *Beowulf* を英雄として扱うゆえんであろう。しかしながら、*Beowulf* には「武勇」が独立して存在するだけでなく、「名誉観」(*honour*)、「仁の心」(*benevolence*)、「忠誠心」(*loyalty*) という3つの徳目と密接に関係しあい、一つの騎士道的理想像として描写されているということが重要な点である。さらに、*Beowulf* の名誉観が「死を賭してでも名誉を守る」という騎士道の精神に統合されているのも特徴と言えるだろう。このような特徴を踏まえて、*Beowulf* の言動や *Beowulf* を取り巻く人々の言動から分析した結果に基づいて、*Beowulf* における騎士道の精神について発表したい。

## 2. 春をもたらす母と娘 — 『冬物語』をめぐって 大久珠緒(城西大学)

シェイクスピアの『冬物語』に登場するハーマイオニとパーディタは、芝居の展開上、大きな役割を果たす女性である。ハーマイオニは夫のシチリア王・レオンティーズとハーマイオニ及びパーディタの関係を新たにし、パーディタはボヘミア王・ポリクシニーズと息子・フロリゼルの絆を強くする。レオンティーズとポリクシニーズの結びつきを再確認させるのも彼女たちである。ハーマイオニとパーディタは実の親子だが、直接会話を交わすことはほとんどない。しかし、彼女たちが劇中で果たす機能は非常に大きく、とくに最後の彫像シーンにおけるハーマイオニの存在は演劇ならではの観客にもたらす劇的効果を生む。本発表では、同じロマンス劇であり、親子関係や芝居の展開等、劇構造も似通った『テンペスト』も参照しながら、この二人の女性に焦点を合わせ、その関係や役割を浮かび上がらせたい。また、『冬物語』と『テンペスト』の2つのロマンス劇が観客にもたらす効果も補足的に考察する。

## 3. ディクテーションの訓練とその効果についての分析 渡辺由紀子 (国際短期大学)

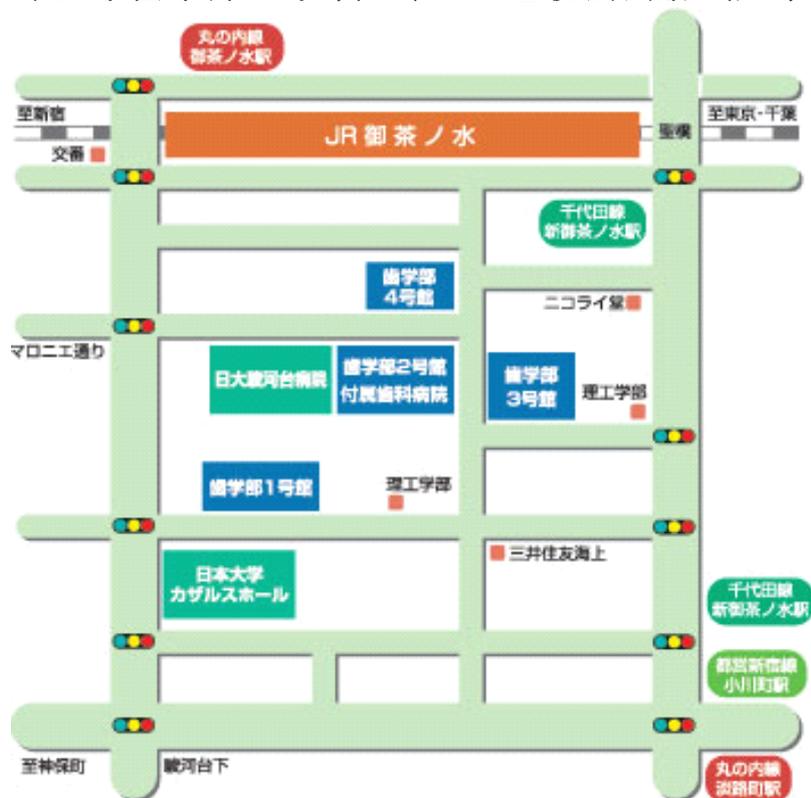
本研究は、TOEIC リスニングスコアの上昇を目指し、ディクテーションの長さおよび量の違いはリスニング力に異なる効果を与えるのかに焦点をあてた。合計 82 名の参加者を量的に多いディクテーション訓練を与えるグループ 1、量的に少ないグループ 2 に分け、リスニングスコアの伸び率を分析した。

分析結果は、ディクテーション方法と時間との主たる効果がそれぞれ有意な値を示し、グループ 1 とグループ 2 の間には対応関係がみられた。その分析結果からは、ディクテーション方法と時間の要因はいずれも点数に対する主な効果を示し、ディクテーション方法 A・B もそれぞれ効果があるが、その方法がとりわけグループ 1 において、より点数を上げる効果を持つことが示唆された。

## 4. IC レコーダを用いたシャドーイング指導の活用事例 中山誠一 (城西大学) 鈴木明夫 (東洋大学)

近年場所を選ばずに音声を手軽に記録し、繰り返し再生できる IC レコーダが急速に普及している。たとえば記者会見において IC レコーダは今や主要な録音機器になっていると言える。教育現場を考えてみると、IC レコーダを取り入れた指導法についての活用事例、あるいはその効果に関する報告はほとんどされていない。一方、近年外国語教育においてリスニングの指導法としてシャドーイングが注目されている。シャドーイングがリスニング力向上をもたらす報告は数多くあるものの、具体的なシャドーイング指導法とその効果について調査を行った研究はほとんどない。したがって、本研究ではシャドーイング指導を行う際に IC レコーダが果たす役割を以下のように調査した。つまり IC レコーダ群、ペアワーク群、フィードバックなし群を設定し、シャドーイングにおける IC レコーダの活用方法と効果を調査した。その結果、IC レコーダを用いた群は他群よりシャドーイング力向上をもたらすことが明らかになった。

\* 例会会場（日本大学歯学部3号館） / 懇親会会場（同館地下）



**JR・地下鉄：** JR 中央線・総武線 御茶ノ水駅  
 都営地下鉄 新宿線 小川町駅 営団地下鉄 千代田線 新御茶ノ水駅  
 営団地下鉄 丸ノ内線 御茶ノ水駅 営団地下鉄 丸ノ内線 淡路町駅

### ◆英米文化学会第 132 回例会（6 月開催）発表者募集

上記の例会（6 月 12 日）の発表者を 2 名募集いたします。発表時間は 30 分です。発表のご希望者は、ご氏名と所属（勤務先）、研究発表題名をメールで、以下のメールアドレスにお送り下さい。

締切日は 4 月 12 日、例会会場は日本大学歯学部（御茶ノ水）です。

発表申し込み先：例会担当 田嶋倫雄 MichioTajima(at)SES-online.jp です。

### ◆英米文化学会第 28 回大会（9 月開催）のお知らせと発表者募集 （大会担当理事：高取康之）

大会の日時と会場は以下のとおりです。

平成 22 年 9 月 11 日（土） 法政大学市ヶ谷キャンパス（詳細は次号掲載）

上記大会の研究発表者を募集いたします。ふるってお申し込みをお願いいたします。発表時間は 30 分です。発表希望の方は、ご氏名、所属（勤務先）を明記の上、研究発表題名と「抄録」（400 字）を、ご面倒ですが念のため以下の 2 つのアドレスにメールでお送りください。件名には「英米文化学会大会発表希望」とお書きください。申込締め切りは 4 月 13 日です。

発表申し込み先：松谷明美 AkemiMatsuya(at)SES-online.jp

事務局：大東俊一 ShunichiDaito(at)SES-online.jp

<おことわり>

メールアドレスの表記については、@入りのメールアドレスを検索・流用して迷惑メールを送りつける悪質な業者が、昨今、多いようですので、「@」を「(at)」に置き換えて表記させていただきます。メール作成のときには、お手数とは存じますが(at)を@に置き換えてご送信いただきたくお願いいたします。

## ◆ 分科会報告

(分科会担当理事：須田理恵)

分科会：認知心理学的アプローチに基づいた外国語としての英語教育研究分科会

参加者：12名（2009年12月26日現在）

開催回数：24回（2009年12月26日現在）

開催場所：全て東洋大学白山キャンパス

活動内容：活動開始から今日（2009年12月26日）に至るまで、参加者全員で関連する先行研究の文献精査・輪読を行ってきた。対象となった先行研究は主にキンチュ（Kintch）らが行ったものである。キンチュは文章の理解のレベルを3つに分けて考えている。1つは逐語的表層、2つめは命題的テキストベース、3つめは状況モデルである。我々分科会参加者はこの3つの理解表象を測定する具体的な実験方法を共有する目的で、先行研究の文献精査・輪読を行ってきた。

次回の分科会では、刊行物の執筆者の担当決定と大まかな章立てを決め、決定後に各自が実験計画を立案して分科会に報告、実験を実行する流れとなる。

(報告：分科会代表 鈴木明夫)

## ◆財務より 年会費納入のお願い

(財務担当理事：山根正弘)

年会費3年間未納の会員に、メール等で会費納入のお願いをしております。前年度および今年度分の納入がお済みでない方も、お振込みをお願い致します。過去に未納がある場合、振り込まれた最新の年会費は未納年度に振り替えて補填するため、実際に入金した年度と年会費台帳上の記録が一致しません。皆様の年会費は入金年月日・入金額・年度・入金方法（郵便振替通知票の続き番号）など漏れなく記載し管理しています。

納入状況は、財務の山根正弘(MasahiroYamane(at)SES-online.jp)にお問合せ下さい。なお、郵便振替用紙はゆうちょ銀行・郵便局に備え付けの振込取扱票もご利用できます。

年会費：5,000円

口座番号：00160-7-611777

加入者名：英米文化学会

◆事務局より 学会暦・会員消息 (事務局担当理事:大東俊一)

<平成22年度学会暦>

	第132例会	第28回大会	第133例会	第134例会
開催日	6月12日	9月11日	11月13日	平成23年 3月12日
発表申込締切	4月12日	4月11日	9月13日	平成23年 1月12日
会報投稿締切	83号=5月7日	84号=7月6日	85号=10月5日	86号=平成23年 2月6日
会誌『英米文化』 投稿締切	平成22年 10月31日			

会場(予定) > 第28回大会 : 法政大学市ヶ谷校舎  
第132,133,134回例会 : 日本大学歯学部

<新入会員>

省略

<訃報>

本学会の初代会長・大島良行先生が、さる12月30日にご逝去なさいました。これまでの長年にわたるご指導に感謝申し上げますとともに、ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。なお、次号の会報は、大島先生の追悼特集になる予定です。

英米文化学会会報 第82号 編集/発行: 英米文化学会 編集責任者: 佐野潤一郎  
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀5-27-23

英米文化学会事務局 〒339-8539 さいたま市岩槻区馬込1288 人間総合科学大学人間科学部 大東俊一研究室内  
Tel:048-749-6111(office), 03-5399-3395(home) E-mail:ShunichiDaito(at)SES-online.jp  
年会費等振込先: 郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777  
学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>